

天橋立・景観まちづくり通信

Vol. 6

～天橋立を核とした魅力ある景観まちづくりに向けて～

第3回天橋立公園の松並木と利用を考える会が開催されました。

天橋立の適正な管理の持続可能性について意見交換が行なわれました

天橋立公園の松並木と利用について、望ましいあり方とその実現のための方策等を調査・検討する「天橋立公園の松並木と利用を考える会」の第3回検討会が、1月27日に京都府宮津総合庁舎で開催されました。

今回の検討会のテーマは、「天橋立の適正な管理の持続可能性について」で、「天橋立は人が自然と関わり続けてきた結果、現在も白砂青松の風景が残されているが、この『人が関わること』を今後も続けていくためにはどのような仕組みや工夫が必要か」、「天橋立の価値とはどこにあるのか」といったことを中心に活発な意見交換がなされました。(裏面の図を参照)



今後は、今回の議論も含めこれまでの検討の成果を報告書としてとりまとめ、天橋立周辺景観まちづくり検討会と合同で行なわれる次回検討会において、その内容が確認される予定です。

第3回検討会で出された主な意見

松並木の管理について

- ・白砂青松は人が徹底的に松林を利用して、砂が家の方へ来ないように作りあげた文化的背景がある。
- ・松から広葉樹への遷移を止めることから始め、砂で覆うなど急いで白砂青松に戻すことは避けた方がよい。
- ・白砂青松の再生は、時間をかけて計画的にゆっくり取り組むべきである。

周辺的环境について

- ・天橋立と周辺環境との関わりを抜きに考えても、同じ問題が繰り返し出てくる。
- ・公共事業等を行う場合、天橋立を取りまく環境でどういことが起こっているかを見ていく必要がある。
- ・天橋立周辺は昔から「山紫水明」の地として有名だが、美しい海があってはじめて天橋立が生きてくる。
- ・周辺の山に竹が蔓延し山の生態が変わりつつある。これを防止しなければならない。

天橋立の価値について

- ・なぜ天橋立なのか、他の砂州と何が違うのか、きちんと価値化しておくことが必要。
- ・松並木と砂州が今日まで続いてきているのは奇跡に近い。人々の心の中にある歴史的、文化的な価値が支えてきたといえる。

- ・天橋立は自分のふるさとの財産だという気持ちがすべてではないか。観光関係だけでなくみんなでもう一度考えようというのが大事。

情報の共有について

- ・天橋立の環境がどうやって管理され維持されているのかを、その努力も含めて伝えていくことが必要ではないか。
- ・取り組みを公開することにより様々な人達の支持を得ていく必要がある。
- ・素晴らしい人材とともに、既に活動している団体がある。今どこで誰が何をやっているのかをみんなが理解して、足りないところを補い合いもっといい活動ができるようなネットワークをつくる方がいい。
- ・一緒に議論することと同時に、知ることと体験することも大事である。

[今回のまとめ]持続可能な取り組みの柱

- ・天橋立の価値を地域で共有する。
- ・天橋立の価値を外に情報発信し、様々な活動をしている人達のネットワークを構築する。
- ・情報発信によりファンを増やす。
- ・天橋立とその周辺環境も含めて保全する。

次回(第4回)検討会について

日時：平成18年3月9日(木) 午後1時30分～
傍聴自由ですので、ぜひお越しください。

会場：みやづ歴史の館 大会議室

